
魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持った外道が憑依したら・・・

リベリオン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持った外道が憑依したら・・・・・・・・

【Nコード】

N6907Z

【作者名】

リベリオン

【あらすじ】

もしなのはに最強形のチートを持った者が憑依したら・・・・・・・・つと考えていたら思いついたモノです。原作ブレイク、キャラ崩壊、最強形、外道、他の転生者（かませ犬）とゆう要素があります。

どうやら転生できるらしい……チートもくれるらしい……なら遠慮なくいただい

この作品は妄想の産物です。

どうやら転生できるらしい……チートもくれるらしい……なら遠慮なくいただい

俺は死んだ。

こんな始まり方ですまないと思うが本当に死んだんだ。

死因は餓死……

一般人で平凡な俺が何で餓死なんてしたと思う？普通は餓死なんてしないだろ？でもしちゃったんだよ。

ちよつと回想でみてみよう……

—————回想

俺はついこの間をきた地震のせいで家具が倒れた。

そしてその家具の倒れたところには魔法少女リリカルなのはのDVDがあった。

そしてディスクは砕け散った。

翌日……

俺は砕け散ってしまった魔法少女リリカルなのはのDVDを買いなおすために銀行にお金を下ろしに行った。

そしてATMでお金を下ろしてるといきなりマスクをかぶった男達が銃を持って銀行に入ってきた。そして…

パン

いきなり俺の脚を撃ってきた。

俺は痛みで気を失った。

次に目が覚めた時はどっかの倉庫だった。体は鎖とロープで柱にくくりつけられているようだ。

なぜここにいいのか理解できない俺は近くにいた銀行強盗に聞いてみた。

銀行強盗曰く、あの後、すぐに警察がきて銀行強盗達は逃げ出そうとしたらしい。その時に人質として俺が選ばれて連れてこられたらしい。

そうして銀行強盗達は倉庫から出て行った。そして俺はそのまま誰にも気づかれぬまま餓死した。

————回想終了

こうして俺は死んでしまい、今は天国に行く最中です。火の玉状態ですが……

「なかなか運が無い死に方じゃな。」

なんだ？声が頭の中に響いている！……まあ火の玉状態なので頭がどこなのかわかりませんけど……

「わしは最高神ゼウス！お前達人間が言うところの神じゃ。」

神？なんで神が俺に話しかけてくる？大体なんで俺は心で話してるんだ？

「それは気にしたら負けじゃ。」

ところで、まさかよくSSである神のミスで死んじやった。ってやつか？

「いやただ珍しい死に方をした人間がいたから見に來ただけじゃ。」

同情するなら金をくって違う違う………同情するなら命をくれ！！！！！！！！

「お主は家なき子か！」

いや、命なき子です。

「お主、なかなか面白いことを言うの。」

今のは面白いのか？

「ふむ。なかなか面白いことを言った褒美としてお主に新しい命をやるつ。」

え！マジすつか！

「うむ。マジじゃ。」

アニメや漫画や小説の世界でも……

「OKじゃ。」

チート能力は？

「問題ない。どんなことでもやってやるう。」

なら転生する世界は魔法少女リリカルなのはの世界でお願いします。

「わかった。一応、平行世界にしておくから何をしてもいいぞ。」

あざーす。じゃあ次の能力は……とりあえず『ザ・ワールド』も
られます？

「いきなりチート能力じゃの。たが問題ない。わしからサービスで
時間を止めていられる時間は無限にしてやるう。」

ちょWマジですか！

「やるなら徹底的にじゃ。」

さすが神様！じゃあ遠慮なく行かせてもらっぜ。まず…

アルファ・ステイグマ
『複写眼』が欲しい。ああ、一応何でも解析できるようにして欲し
い。

「了解じゃ。これもサービスで暴走はしないようにしてやろう。」

次は『万華鏡写輪眼』が欲しい。天照や須佐能乎はいらないからコピーする事に特化してほしい。でも月読は絶対にくれ。

あと視力は何をしても失わないようにして。

「了解じゃ。それじゃあサービスでイザナギを使えるようにしてデメリットは無しにしてやろう。」

それって絶対倒せないよな……えっと次は刀語りの七実の『見稽古』をくれ。

「わかったのじゃ。一応、どれだけ全力を出しても体が壊れないようにしてやろう。」

サンキューっと次はニードレスの『PF・ZERO』ポジティブフールドバック・ゼロをくれ。

「わかったのじゃ。サービスは全てのフラグメントを覚えてる。でよいじゃろ。」

完璧です。じゃあ次は『スキル能力完成』をくれ。

「任せておけ。今回のサービスは……」

今まで言った能力を全部同時に使えるようにして欲しい。

「ん？どうゆう事じゃ？」

アルファ・ステイグマ

まず『複写眼』で相手の技や魔法を解析。そして『万華鏡写輪眼』と『見稽古』で解析した技や魔法をコピーする。『ボジティブファイードバック・ゼロ PF・ZERO』でコピーした技や魔法を増大して強化する。そして、『スキルジ・エンド 能力完成』で完全に相手の技や魔法を強化したモノを完成させる。

「お主……なかなか面白い事を考えるの。」

それで、できるの？

「問題ないぞ。」

じゃあよろしく。あとはあらゆるエネルギーを使えるようにして欲しい。

「たとえばどんなのじゃ？」

とりあえずリンカーコアの魔力とネギま！の魔力。 Fate/stay nightの魔力、ゼロの使い魔の精神力、 NARUTOのチャクラ、気、霊力、妖力、神力、生命力、とかだね。

「了解した。一応ほかの世界の能力も使えるようにしておこう。」

ゲート・オブ・バビロン

あとは……収納用に『王の財宝』、それと『アンリミテッドブレードワークス 無限の剣製』も頂戴。

ゲート・オブ・バビロン

「了解じゃ。『王の財宝』の方には全ての宝具の原型と全てのロストロギアの原型を入れておこう。『アンリミテッドブレードワークス 無限の剣製』には別の世界の剣も入れておくぞ。あと両方とも指を鳴らすだけで出てくるようにしておいたぞ。」

了解ーあと人としての限界を突破できるようにして。あとは全ての

才能をちょうだい。あと多重思考も。

「わかった。能力は元から人外まで上げておくぞ、お前しだいではさらに上までいけるようにしてあるぞ。あと才能は『見稽古』とは別にしておいたから七実の才能＋全ての才能＋元から持つ才能にしておてた。多重思考はざつと50ぐらいは使えるようにしておいた。お前しだいではさらに増えるぞ。」

あい。

「もうないのか？」

これだけあれば十分だろ。

「そうじゃな。また何か必要になったら言ってこい。3つだけなら叶えてやる。」

サンキューじゃあ飛ばしてくれ。

「転生先は海鳴市でいいよな」

おう。問題ないぜ。

「では、行ってこい。」

そして俺は行き成り眠気に襲われて意識をてばなした。

そして次に目が覚めたらそこは知らない天井が視界に入った。

「あつあつあつあつあつ……」(知らない天井だ……)

on 言えなかった。どうやら赤ちゃんになったみたいだ。

今は夜らしく人の気配はしない。

情報を集めるのは朝になってからだな……

とりあえずすることが無い俺は自分の中にあるリンカーコアやネギま！の魔力。 Fate / stay night の魔力、ゼロの使い魔の精神力、 NARUTO のチャクラ、気、霊力、妖力、神力、生命力、の確認をして時間をつぶした。

どうやら転生できるらしい……チートもくれるらしい……なら遠慮なくいただい

感想お待ちしております。

なのはに転生！?……（いえ憑依ですb y作者）（前書き）

もはや語る言葉はない……かもしれない。

なのはに転生！？……（いえ憑依ですby作者）

俺が転生した翌日……俺は神を呪った。

俺の母親は高町　桃子さんでした。もちろん父親は高町　士郎……

家族構成はシスコンの代名詞として上げられるほどのシスコン高町
恭也そして、原作では特に何も無い高町家で一番普通？そんな人
の高町　美由希……

そして、俺の新しい名前は魔砲少女で有名な　高町　なのは　だそ
うだ。

あれだね……性別が変わる可能性は理解していたけど（神に頼み忘
れていた。）まさかなのはになるとわ……あ！なのはって事は砲
撃ができる！うほ！マジで！

そう考えたら何かがみなぎってきた。

そういえば昨日確かめた時になぜかリンカーコアが2つ確認できた。
片方は桃色でもう片方が青色のだった。

もしかして桃色のってなのはのリンカーコアなのか？そうになると俺
が神にもらったリンカーコアが青色か……

とりあえず今は赤子……立てるようになるまで待つか……

そうゆえば視界になにか線のようなものが見えるんだよね……何な

んだろうな……あれも立てるようになってから調べるか……

2ヶ月後……

やあ魔砲少女こと高町　なのはだよ　キラ

まあ中身は別だけどね。

さて、なのはになって2ヶ月だがやっと立てるようになった。（普通は11ヶ月ぐらいはかかります。）

とりあえず立てるようになったのでいろいろ試してみることにしました。

まずあの線の正体を確かめてみた。その結果、直死の魔眼だった。

なぜ？　と思い多重思考をフル活用して考えてみた。その結果、死んだから死にふれた。Ⅱ直死の魔眼開眼。とゆう結論がでた。まあ使えるものが増えたとし問題ないだろう。

『アルファ・ステイグマ
複写眼』で直死の魔眼を解析してデメリットを解除、『ボジティブファイ
ドバック・ゼロ
E R O』で強化、『スキルジ・エンド
能力完成』で直死の魔眼を改造した魔眼を作成した。もちろんON・OFFの切り替えも完璧である。

さて……立てるようになった俺は『ザ・ワールド』を試した。

「あつあつあつーあつあつ！（ザ・ワールドー時よ止まれ！）」

onまた言えなかった。

どうやら立てるが言葉は無理みたいだった。

しかたない『ザ・ワールド』が使えないなら他のも試すのはまずい……とりあえず月読を試してみるか……

結果月読は成功して俺は一瞬が72時間になる体験をした。

月読は問題ないな………そういえばリンカーコアはやっぱりなのはのと俺のは別だった。

まあ二つあると面倒だから1つにまとめた。その結果、なのはの魔力……たしかAAAぐらいだと思うが、それが俺のSSSオーバーの魔力に吸収された。そしてなのはのレアスキルである、『魔力収束』も取り込んだ。ちなみに俺の魔力は性質変換ができるらしく一応、『氷』と『青い炎』が使えた。あとレアスキルとして『次元跳躍』があった。

『次元跳躍』とは簡単に説明すると単体で次元を跳躍できるものだし、しかも距離とかは関係ないらしい。

と『アルファ・ステイグマ複写眼』の解析結果で出ていた。

さて……今できるのはこれぐらいしかないな。ああ、早く喋れるようになりたい。

さらに2ヶ月後……

「やっとしゃべれるようになったのはだよ」

まだうまく喋れないがなんとか喋れるようになったぜ。

しかし田村ゆかりさんボイスだね。いつか声優ネタでもやるか。

よし『ザ・ワールド』をためすか。

「ぎ・わゝるど、ときよとまれ」

つと発動したか？

俺は時計の針を確認した。針は止まっている。

よし！成功だ。次はいろんな世界の魔法や魔術とか忍術を試してみるか。

そして俺は時の止まった世界で色々やり始めるのだった。

そして3年後……

「どうも、高町 なのは 3歳です。」

って誰に挨拶してるんだ！

しかし、なのはになってもう3年か……この3年間は色々あったな……永全不動八門一派・御神真刀流小太刀二刀術（以下御神流として表示）の技や奥義を見ただけで覚えたり……ああちなみに家族には言っていない。あと御神流の技と奥義ははつきり言って『神速』以外ほとんどつかいものにならなかった。『神速』ですらまああのレベルであった。じっさい俺には『ザ・ワールド』があるからな。まあメリットは発動に詠唱がある『ザ・ワールド』とは違い、『神速』ならすぐ発動できる。まあ世界がモノクロになる感覚は面白かった。

といっても俺は常にイザナギを使っているから死なないけどなW

ちなみに最近は月読を応用して修行している。まあ簡単に説明すると……多重影分身の術をつかい分身を作成。ちなみに1000人ぐらい。

そして全員に月読にかけて幻術空間へ。

幻術空間で某英霊達やどっかの無敵軍隊や艦隊、他の作品のチートキャラやバグキャラとたっぷり戦闘させている。

ちなみに現実では1日だが幻術空間では……ああ…数えるのがめんどくせ…

まあかなりの時間を経験しているのである。

ちなみに分身達はネギま！の影魔法で作った俺の影の中に入れてある。寝る前に分身を消して起きたら作るの繰り返しだがこれが馬鹿

にならないほどの経験値を稼いでくれている。

おかげで俺はオリジナルの魔法や剣術の作成にとりくめるしらくである。

まあ一応、運動神経がよくて勉強もできる内気な少女でとうしているからあまり派手なことはできないんだけどね。

まあまだ3歳なんだしあせることはない。まだミットチルダの座標が特定できないけど特定が完了しだい行くつもりだ。

ちなみに座標の特定は分身を飛ばしているだけだが……まあ数撃ちやいつかは当たるだろう。

それと……最近、桃子さんのオーラが怖く感じるようになった。

どうも俺の一人称が俺なのが原因らしくちょっと前にO H A N A S H I させられた。

あれは久しぶりにあじわった死の恐怖だった。（ちなみに最初にあじわったのは餓死する58秒前です。）

それ以降、俺の一人称は人前で猫かぶりの時のみ私である。

まあ桃子さんに殺されるよりはマシだろう……

他にもシスコンヤローに、「教えてくれ、俺はあと何人殺せばいい」とか「チーム名はリトルバスターズだ!」とか言わせて遊んでみたりしている。

中の人ネタですねW

とまあ毎日楽しくやっています。

あと父は最近「なのはと一緒に風呂にはいろう」「とか言ってきたので丁重にお断りしたら3日ぐういじけてました。

へ？高町 美由希？デレデスカソレ

なのはに転生！？……（いえ憑依ですb y作者）（後書き）

感想をお待ちしております。

父が逝ってしまいました。……（死でいませんb y作者）（前書き）

このなのはは田村ゆかりさんボイスです。がんばって脳内変換してください。

父が逝ってしまいました。……（死でいませんb y作者）

どうも5歳になった高町なのはです。

ついに父である高町 士郎が吹っ飛んだそうです。

おかげで俺は家族にほっとかれっぱなしにされています。

まあ寂しくともなんともないですけどねW

最近^{アンリミテッドブレードワークス}は神社の近くの森に行つて『無限の剣製』から取り出したFF
？のセフィロスの使っていた長刀『正宗』を両手に持ち色々技を試
してみる。

「双剣！燕返し！」

右手で同時に3太刀、左手で同時に3太刀をくりだす。しかし……

「やっぱりまだ右手のほうが少し遅れてる。」

やはりなのはは左利きだから右の反応が少し遅いのか……

などと考えていると近くの茂みになにか気配をかんじた。

迷わず俺は左手の『正宗』を投擲した。

手ごたえは……無かった。俺は確認のため茂みにちかずいた。そ
こには……

「狐？」

気絶してる狐がいた。

この狐を『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析した結果、もと妖狐の祟り狐ゆう結果が
でた。

とゆうことはこいつは久遠か……まさかとらハ3のやつがここに
いるとは……でも祟り狐じゃ無いってことは、もう祟りは取れた後な
のか？だとしたら時間列がすこしおかしくなるのか……

まあ気にしないでおう。お！久遠も起きたみたいだ。

「クウン〜」

「おきたの？さっきはごめんなさいなの」

ザ・猫かぶりモード発動！！

「君の名前はなんてゆうのかな？」

「クウンー」

だめだまったく理解できない……………よしこは……

久遠にばれないように『ゲート・オブ・バビロン王の財宝』から動物の言葉がわかるように

なりすかれるようになるとゆうわけのわからんロストロギアの原点
を取り出し、『アルファ・ステイグマ複写眼』で解析して使い方を確認した。

この飴玉みたいなロストロギアを食べればいいのか……

俺はロストロギアを食べた。

「さて……君の名前はなんていうのかな？ 私はなのは、高町 なのはだよ」

「久遠」

お通じた通じた。 って久遠がいきなり俺に飛びついてきた。

「うわ、いきなりどうしたの久遠？」

「なのはいいにおいがする」

これが動物に好かれるということか……しかし動物はかわいいな……

さういえば久遠ってどこかで飼われていたような……「久遠はどこに住んでるの？」

「昔は神社で暮らしていたけど那美が用事で出かけたから今はこの森に住んでる。」

へー那美さんはいないのか……じゃあこのまま久遠をお持ち帰りしていいかな？……いいよね。

「それなら私と一緒にくる？」

「いく」

よし久遠ゲットだぜ！

俺は久遠をつれて帰り桃子さんに飼っていいか聞いてみた。

いそがしかったのだろうかちゃんと世話をするならOKと言われた。

こうして久遠は私のペットになった。

そして2ヶ月後……

ついにミッドチルダの時空座標が判明した。

「久遠。俺は今ら出かけるけど一緒に来るか？」

「いく」

ちなみにこの2ヶ月で俺は久遠に対しての猫かぶりをやめた。

最初は驚かれたけど今では特になにもなく一緒に遊んだり修行したりしている。

あと久遠の言葉は周りの人には「クウン」って聞こえるらしく俺は普通に喋っているそうだ。

俺は久遠を抱きかかえミッドチルダの座標に跳躍した。

そして俺達はミッドチルダの首都ラナガンに到着した。

「なのは……いつどこ？」

念話で不安そうに久遠がたずねてきた。

ちなみに久遠とは家の外では緊急時以外念話で話すことにしている。

「久遠は別の次元があるって信じる？」

「よくわかんない。」

「うーんとね。簡単に言うと俺や久遠が住んでいる次元世界とは別にいくつもの次元世界があるんだよ。それでここは全ての次元世界の基点として第1世界と称されている次元世界それがここミッドチルダなんだ。そして俺達が今いるのはこの次元世界の首都のクラナガンってところ。わかった？」

「なんとなく……それでなのはは何しにここに来たの？」

「魔法のことを調べにきたんだよ。まだ色々わからないことが多くてね。」

「そうなんだ」

「それじゃあちょっと待っててね。すぐに終わるから。」

「うん。」

「ザ・ワールドー、時よ止まれ。」

俺は『ザ・ワールド』を唱えてミッドチルダ全体の時を止めた。

もちろん久遠も止まってしまいがこれは仕方の無いことだ。

俺は久遠を影の中に入れてミッドチルダのあらゆる場所を見て回った。

たいてい俺は一度見てしまえば完全に記憶できる。まあ影分身も使うからすぐ終わるだろう……

そして作業自体は12時間ぐらいで終了して俺は管理局の不正の塊のデータとミッドチルダ式魔法、ベルカ式魔法、デバイス作成の知識と技術、あとは次元航行艦船のデータとアルカンシエルのデータ……その他色々てにすることができた。

じつさい一番の驚きが俺はアルカンシエルを単体で使えるとゆうことだった。

さて……もうすることが無くなった俺は『ザ・ワールド』をといて久遠と一緒にミッドチルダを遊びまわし日が暮れてきたので地球に

帰った。

余談だが数ヶ月後、父である高町 士郎が復活して俺は心の中で泣きながらお祝いした。

父が逝ってしまいました。……（死でいませんb y作者）（後書き）

感想をお待ちしております。

私立聖祥大附属小学校入学……………なんてしたくなかった。（前書き）

今回はなのはさんのチートスペックの一部とシスコン討伐の話です。

私立聖祥大附属小学校入学……なんてしたくなかった。

どうも高町　なのは　6歳です。

今日から俺はピカピカの1年生になります。……

正直めんどくせー俺は一応前世では東大でてるんだけど……

でも行かなかつたら桃子さんに殺されるだろうし……だから仕方なく通うことになった。

しかし、まだ問題があつた。久遠である。

久遠は高町家ではなのは以外にはあまりなつかない。元飼主の那美さんのところにも帰らなくなり「久遠の選んだことですから」と寂しげに言われたのはつい最近のことである。まあ週に1回は久遠をつれて遊びに行っているのだが……

まあその久遠は俺から離れたりしない、いつも俺の右肩に乗っている。

まあ俺は久遠のことはかわいいと思うし右肩にのろうがかまわないのだが……久遠は学校についてくるとか言い出したのである。

なんでも……「なのはと離れるのいや」だそうだ。

そのせいで俺は学校に登校できずにいた。入学式から遅刻では示し

がつかない。

「久遠、私は学校に行かないといけないの。学校には久遠を連れて行けないかだよ。」

ちなみに現在は高町家の玄関で長く伸びた俺の髪に久遠がつかまっている状態だ。

周りには父と桃子さんがいる。シスコンともう一人はすでに家を出ている。

そのため俺は現在、猫かぶりモードである。

あと俺はなのになってから一度も髪の毛を切ってないため膝ぐらのまでの長さがある。と補足説明をしておく。

久遠は結局、俺の髪を離さなかったので、桃子さんが仕方なく学校に連絡……

なにか怖い声が聞こえたけど……とりあえず無視だ。

そしてね電話を終えた桃子さんは……

「学園理事長にすこし O H A N A S H I したら特別にクーちゃんを連れて行ってもいいって許可をもらったわ。」

桃子さん……あんたいつたいなにをしたんですか。………とは怖くて聞けないのである。

ちなみにクーちゃんとは桃子さんえつと……たしか俺の姉がそう

呼んでいる。他は普通に久遠とよんでいる。

それはさておき、とりあえず許可が出たので俺は久遠を右肩にのせて学校に行った。

「よかったね久遠」

「うん！」

そう言つて久遠は俺の顔に自分の顔を摺り寄せてきた。

学校まではバスが出ているからそのバスに乗り込んで俺はあいている席に座り、久遠と念話しながら学校につくのを待った。

そして入学式が終わり俺は自分のクラスに向かった。そのあと簡単な自己紹介があつたが特に何もなく終わった。

久遠については生徒たちがざわついたが先生はどうやら知っているようで特別に許可されている。と説明してくれた。

とりあえず今日はもう帰るだけなのだが……

「おいお前！」

とりあえず今日はすることが無いし学校の中を見て回るか……いい昼寝場所を見つけられるかも知れないし……

「おい！聞こえてんのか！」

と私の机をたたいてる男子生徒に目を向けた。

「何かよう？」

そこにはいかにもガキ大将ってゆう面構えのガキといかにも取り巻きみたいな生徒が2人いた。

「お前のその狐を俺によこせ。」

ガキ大将はいかにも久遠が自分の物でもあるかのように言った。

「何で私が君に久遠を渡さないといけないの？」

俺は正論を言ってやるとガキ大将は……

「うるせーよ俺が渡せって言ってるんだから渡せよ！」

と意味不明なことを言ってくる。

付き合いきれんな……

そう思い俺は席を立ててガキ大将達に背中を向けた。

「無視してんじゃねー！」

と叫びながら殴りかかってきた。

遅いな……

そう思いなが俺はガキ大将の手を掴みそのまま背負い投げの要領で投げ飛ばした。

ドガシャーーーーーン

派手な音を立ててガキ大将は机に激突した。

そして俺はガキ大将に近ずき腰お下ろす。どうやら気絶はしなかったようだが呼吸が可笑しい……………まあどうでもいいが。

「とりあえず女の子を後ろから殴るのは関心しないよ」

そう言つて俺は彼の顔面に手加減して殴った。

そして気絶してしまったガキ大将をほつといて俺は教室から出た。

あのあと学校を一通り見て回つていい昼寝スポットを見つけた俺は家に帰った。

そして、家に入つたとたん桃子さんに抱きつかれた。

どうやら学校の事が先生を通じて桃子さん達に伝わつたらしい。

周りの証言で俺が正当防衛であると判断され俺はお咎め無し。

あのガキ大将は全身打撲に顔面強打、おまけに肺が少し損傷したらしく入院……………

ガキ大将の家族が何か言ったらしいが完全に加害者なためただ騒いでるだけに終わった。

とりあえず桃子さんに「大丈夫だよ」と言ったら離してくれた。

する父が真面目な表情で「なのは。動きやすい服を着て道場に来なさい。」と言つて道場に向かった。

仕方なく自分の部屋で着替えて道場に向かった。

そこには父とシスコン、それと……誰だっけ？

「美由希だよ。」

おおそくだそくだ俺の姉の美由希さんだ！特徴が無くて忘れてた。ありがとう久遠。

それはさておき……「なんでここによばれたの？」

「なのは、お前、剣の道に興味はある「無いなの」……………」

と俺は父の言葉わ途中で切った。御神流なんてやるよりオリジナルの技わ作るほうが楽しい。

「と、とりあえず恭也と少し打ち合ってくれないか？なのはには才能があると思うんだ」

この父は人の話を聞いているのだろうか？

「もしなのはが恭也に勝てたら何でも好きなものを買ってあげるよ。」

」

へ？まじで！よし殺るかー

「やるなの」

そう言っただけ俺は美由希に防具をつけてもらった。まあ自分で着れるけど一応ね……

恭也はこの時、なのはにはどんな才能があるのだろ……と考えており。

士郎はやっぱ子供だな……などと考えていた。

さて、準備が完了した。とりあえず俺は少し長めの木刀を構えてシスコンの前に立った。

「さあなのはどこからでもかかってこい。」

シスコンは防具はつけず小太刀に見せかけた木刀を2本持つて構えている御神流の基本の構えだ。

「それじゃあお言葉に甘えて……………一刀・燕返し（かなり小声で）そう言っただけ俺はシスコンめがけて同時に別方向から3太刀を浴びせた。

その1の太刀には反応したが2の太刀と3の太刀はもろに食らいシスコンは道場の壁に吹き飛ばされた。

周りがポカーンとしているがとりあえず勝てたので……

「それじゃあお父さん。新しくでたPC買ってね。」

「ああ……」

父の返事を録音して俺は道場をあとにした。

士郎は思った。なのは間違いない逸材だ。必ず御神流を継承させると。

そして翌日、士郎の財布はなのはの希望どおりハイスペックPCを買わされてせいで軽くなってしまい、そして、なのはに御神流の話を持ちかけたら「興味ないの」と言われたのだった。

そして、士郎の八つ当たりにより恭也と美由希の修行がかなり厳しくなったのは別の話……

私立聖祥大附属小学校入学……なんてしたくなかった。(後書き)

感想をお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6907z/>

魔法少女リリカルなのは もしなのはに最強形のチートを持った外道が憑依した

2011年12月25日18時45分発行